

## 『心地よいあいさつ』

2月1日のHP上に『あいさつで笑顔の花を咲かせようCP』の記事をアップし、そのCPも2月4日（金）をもって終了しました。

CP終了後、どれだけあいさつへの意識が高まったか、あいさつそのものが変わったのか楽しみです。

『あいさつ』は基本的なコミュニケーションの最たるもので、誰もが毎日少なからず交わってきているものです。

よって、相手からのあいさつが形だけのものか、想いがこもったものか、義務感によるものか、自然なものか、といったことは感覚的に捉えることができます。（正解かどうかは別として、そのように受け止めてしまうことで、第一印象として残ってしまうこともあります。）

表情、声のトーン、声量、視線、立ち振る舞いなど、1分以内に納まってしまう所作から受け止められるというところに怖ささえあります。

では、『心地よい』と感じるあいさつを日常の中から紹介します。名前は差し控えますが、毎朝、横断歩道のところに立っていて交わす一人のあいさつです。

その所作には、他の場面ではほとんど見ることもない『会釈』があります。軽く礼をし、目を見てあいさつができる、なかなかできることではありません。また、何より『心地よい』と感じるのは、所作が自然なんです。ほんの一瞬の姿ですが、不自然さや「形だけ」といった想いは一切湧いてきません。

きっと、あいさつをする側も「あいさつをしなくては・・・」という義務感からではなく、自然に交わしていると思います。だから、相手にも伝わるのではないのでしょうか。

せっかく毎日交わすあいさつです。

お互いが気持ちよくあいさつを交わし合うことができれば、人間関係もきっと良好です。『たかがあいさつ、されどあいさつ』です。

